



学校給食週間

1月24日から30日は『全国学校給食週間』です。



学校給食週間とは？



日本の学校給食は、明治22年に山形県鶴岡市の『私立忠愛小学校』で始まったといわれています。この頃の献立は『おにぎり・焼塩鮭・菜の漬物』でした。

全国へ広がった学校給食は、第二次世界大戦のため一時中断します。しかし、戦後の食糧難により児童の栄養状態が悪化し、学校給食実施の必要性が叫ばれるようになり、『ララ（アジア救済公認団体）』からの救援物資をうけて再開します。

昭和21年12月24日にララ物資の贈呈式が行われ、この日が『学校給食記念日』となりましたが、現在では冬休みのあける1か月後の1月24日から30日までの1週間を『学校給食週間』とし、学校給食の意義や役割について理解を深め、関心を高めるための取り組みが、全国で行われています。

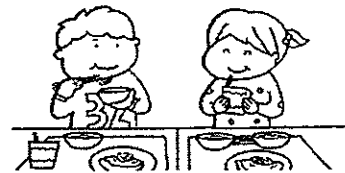


帯広市の学校給食の歴史

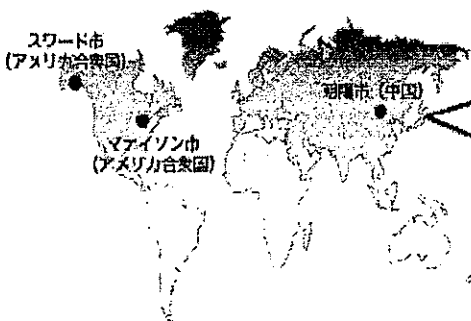
帯広市では、昭和19年に明星小学校で、魚屋さんからいただいた魚と家庭から持ち寄った野菜で副食給食（おかずだけの給食）が始まりました。

その後、昭和22年には柏小学校でララ物資による副食給食が開始し、昭和24年には、帯広小学校での副食給食と、第二中学校での脱脂粉乳による給食が開始し、徐々に広がっていき、昭和26年には主食と副食がそろった完全給食となりました。

昭和40年には稲田地区に『学校給食共同調理場』が完成し、市内全校で完全給食が始まりました。調理場は昭和57年に西帯広に移転し、平成27年に『学校給食センター』として南町へ移転しました。



帯広市の姉妹都市って？



静岡県 松崎町
(人口約6,500人)

帯広市では、国内3都市（静岡県松崎町・大分県大分市・徳島県徳島市）、海外3都市（アメリカスワード市・マディソン市・中国朝陽市）と姉妹・友好都市を締結しています。

毎年『学校給食週間』には、国内姉妹都市である3市町の特産物を使用した献立と、地場産物を使用した献立を実施しています。

今年は、開拓姉妹都市・松崎町のある静岡県の特産物を使用した献立を実施します。



松崎町ってどんなところ？



帯広市と松崎町は、帯広開拓の祖「依田勉三」が松崎町出身者であるという縁により、昭和53年（1978年）に開拓姉妹都市を締結しました。

松崎町は、伊豆半島の西南に位置し、海と山に囲まれた美しい町です。古くは早場マユの産地として栄え、豊富な温泉が湧出したことから、伊豆西海岸の観光基地として発展しています。

また、特産物では「さくら葉」が有名で、全国生産量の7割を占めています。

毎年、両市町の間では、小学生からなる子ども親善訪問団が夏休みに互いのまちを訪問し、異なる風土や文化を学びながら交流を深めています。



学校給食週間の献立



25日(月)	27日(水)	28日(木)	29日(金)
静岡県・松崎町	静岡県・松崎町	十勝・帯広市	十勝・帯広市
☆しらすかき揚げ丼 ☆椎茸のみそ汁 ☆チンゲン菜のおひたし ☆富士山ゼリー ☆緑茶	☆ご飯 ☆つみれ汁 ☆静岡ハンバーグ ~オニオンソース~ ☆ごまじゃこサラダ ☆駿河エレガントゼリー ☆牛乳	☆小豆パン ☆コーンシチュー ☆枝豆コロッケ ☆十勝マッシュリソテー ☆牛乳	☆ビーフストロガノフ ☆じゃが芋ココロサラダ ☆牛乳

ほかにも
たくさん！

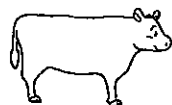
松崎町の特産物

松崎町は、駿河湾に面した豊かな漁場から季節を問わずに水揚げされる様々な魚介類。そして、天城山系の清らかな水に育まれるわさびなど、豊かな自然の恵みによって生まれた特産物がたくさんあります。

那賀川と岩科川が合流する河口付近では、冬の味覚『川のり』が採れます。乾燥して出荷され、香りや風味のよさを味わうことができます。また、これらの川では『鮎』釣りも盛んにおこなわれています。



帯広産
ブランド牛！！



十勝四季彩牛



今年の学校給食週間での十勝・帯広にちなんだ献立では、帯広で育つブランド牛『十勝四季彩牛』を使用した『ビーフストロガノフ』を提供します。

『十勝四季彩牛』は、黒毛和牛の父とホルスタイン種の母に生まれた、それぞれの品種のいいところ取りの牛です。肉質や味の面で優れた和牛の特長を持ちながら、ホルスタインの生育の良さを合わせ持っています。

北海道の道産牛肉学校給食提供推進事業により、普段は給食に登場しない『十勝四季彩牛』をたっぷり使用し、帯広の中村さんが作った玉葱と合わせて、味わい深い『ビーフストロガノフ』に仕上げました。